

会 議 要 録

名 称		第 9 回西予市中学校再編検討委員会
事 務 局		教育委員会教育部教育総務課学校再編係
		電 話 0894-62-6430
開 催 日 時		令和 8 年 7 月 23 日(木) 18 : 57～20 : 32
開 催 場 所		西予市役所 5 階 大会議室
出席者	委 員	井上昌善委員長 他 17 名（欠席 7 名）
	その他	
	事務局	教育総務課 4 名 学校教育課 2 名
議事内容(要旨)		進行：教育総務課長 1 開 会 2 委員長あいさつ 3 議事 西予市中学校再編検討委員会設置要綱（以下、「要綱」という。）第 6 条第 1 項により、進行（議長）は委員長。 委員長：委員 18 人の方が出席であり、過半数以上の出席があることから、要綱第 6 条第 2 項により会議が成立することを報告する。 （1）前回検討委員会の確認について 委員長：前回検討委員会の確認についての説明を事務局に求める。 事務局：前回検討委員会の確認について説明する。 （2）答申（案）について 委員長：答申（案）についての説明を事務局に求める。 事務局：答申（案）について説明する。

委員長：「Ⅰ 答申にあたって」について、委員に意見を求める。

委員：意見なし

委員長：「Ⅱ 中学校再編の必要性」について、委員に意見を求める。

委員A：中学校再編は『必要不可欠な取組である』との表現はやや強い印象を受ける。これまでの議論の経過や整理された理由を踏まえれば、「以下の点から必要である」と考える」といった表現で十分趣旨は伝わるのではないか。「必要である」までは理解できるものの、「必要不可欠である」とまで断定すると、保護者や様々な立場の市民からは言い切り過ぎと受け取られる可能性がある。また、主語が大きく、一般論として断定しているようにも受け取られるため、「本市においては、中学校再編は必要である」といった形で、本市の実情に基づく判断であることが分かる表現の方が適切ではないか。

委員長：そのような観点で修正することとして良いか。

委員：異議なし

（「本市において」を追加、「必要不可欠」の不可欠を削除）

委員長：「Ⅲ 西予市立中学校の望ましい教育環境について」1 望ましい教育環境と（1）ソフト面について、（2）ハード面について、委員に意見を求める。

委員B：ハード面、ソフト面、一学級の生徒数、一学年の学級数の4つの観点からと書いてあるが、一番最初がソフト面からになっているため、最初の文章は観点の順番に合わせた方が分かりやすいと考える。

委員長：そのような観点で修正することとして良いか。

委員：異議なし

（冒頭の「ハード面」と「ソフト面」を観点の順番に合わせて入れ替える）

委員C：ハード面について エ安心して学べる教育環境において、「耐震化や空調設備の進展は評価されている」と記載があるが、誰が誰を評価しているのか。

事務局：第4回検討委員会において実施したグループワークの意見をいただいている。その中で、ハード面に関する意見としてこのような内容が挙げられており、空調が整備されているといった点から、一定の教育環境は整っているものと整理し、そのような記載としている。なお、これはグループ3からの意見によるものである。

委員C：確かに教室は空調が整っているが、体育館については必ずしも十分な環境とは言えない状況にある。個人的には、評価できるような状況にはないと考えている。この記載を見た際、現在も子どもが体育館で部活動をしている様子を日常的に見ている立場として、「評価できる」という書き方が本当に適切であるのかという点に違和感を覚えた。

委員B：耐震性は大丈夫なのか。

事務局：耐震化は完了している。地震で崩壊することはない。

委員長：教室については基本的に空調設備が整備されているが、体育館や関連施設については、なお未整備の部分がある状況である。そのため、先ほどの委員からの意見や指摘は、学校全体として施設整備をさらに進めていく必要性を示したものであると考える。

そうした観点からすると、ここで「評価されている」と断定的に記載することは十分ではないように思う。耐震化については、事務局から基準を満たしているとの説明があったが、空調整備については、今後も整備を進めていく必要があることを分かるような表現にしておく方が適切ではないかと考える。

委員C：寄宿舍のあり方に関する記述についてですが、3行目に「また、寄宿舍の運営については、市が主体となっ

て行うことで、教職員の負担軽減になると考える」という記述がある。

本校には寄宿舎があり、この１学期間、教職員の様子を見ていて、非常に厳しい状況の中でも、職員は文句一つ言うことなく業務に当たってくれており、本当にありがたいと思う。

その上で、記述の最後にある「なると考える」という表現は少し弱いのではないかと思う。西予市として、例えば「教職員の負担軽減につなげる必要がある」といった表現に改めるなど、より積極的な考え方を示してもよいのではないかと考える。

寄宿舎の業務については、市の職員が担う方向にしていくべきであり、そのことが教職員の負担軽減につながると思う。他の委員の意見も聞いてみたいと考える。

委員長：先ほどのご提案について、寄宿舎のあり方に関する記述の最後の表現を、「教職員の負担軽減につなげる必要がある」という形に修正してはどうかとのご意見でしたが、いかがか。

委員：異議なし

委員長：それでは、その内容で修正することとする。その他意見はないか？

委員：意見なし

委員長：「Ⅲ 西予市立中学校の望ましい教育環境について」２望ましい学校規模 （１）望ましい１学級の生徒数 （２）望ましい１学年の学級数、委員に意見を求める。

委員：意見なし

委員長：Ⅳ 西予市立中学校の再編に向けた具体的な方策について 意見を求める。

委員D：宇和中学校については、新しい校舎ができているが、他の皆様はどう捉えられているのか。

事務局：宇和中学校については、解体して新しく建て替える校舎と、改修して利用する校舎とがある。全てが新しくなるわけではない。現在の表現では、新しい校舎になるといった表現ではないというご指摘であると考える。

委員長：新しくといった表現は難しいのか。

事務局：全てが新しくなるわけではない。新築する部分と改築する部分があるため、新築や改築といった表現を入れてはどうか。「校地を活用し、校舎を新築、改築し再編する」といったような形であれば伝わるのではないか。

事務局：普通教室棟２棟、職員室がある管理棟１棟については解体し建て替える。プラネタリウムが屋上にある建物については、長寿命化を図る計画である。建て替えの期間については、仮設校舎を予定している。

委員Ｂ：グループワークの中では、新築に向けて話を進めていったと自身、思っているが、説明が今までにあったのか。あったにしろ、なかったにしろ、校舎を活用してと言う表現はおかしいと考える。

事務局：第１回検討委員会の折に、資料を提示して説明を行った。耐力度が基準を満たしていない建物については取り壊して、建て直す。耐力度がある建物については、改修と説明は行った。

校舎を取り壊す部分については、当然ながら新たな校舎を整備することになるため、新校舎になると考えている。

一方で、現在の校舎をそのまま活用しながら改修を行う形となることから、全面的な新築ではなく、既存施設の改修・改築を含めた整備であると考えていただきたい。

校舎の「改築」について補足すると、改築は建て直しを行うものであり、「新築」と同じである。一方、「改修」は、いわゆる長寿命化を図り、現在の施設をより長く活用できるように整備するものである。

これは検討委員会からの答申であるため、表現については委員の皆様のご意見を踏まえて整理したいと考えている。

「新築」という表現が適切で分かりやすいということであれば、新築とすることもできるし、「改築」という表現に統一することもできる。一般の方にとっては、「改築」よりも「新築」の方がイメージしやすく、分かりやすい表現ではないかと思う。表現については、委員の皆様のご意見に合わせて整理したいと考える。

委員長：重要なのは、内容や意味合いがしっかりと伝わり、正確に理解していただけることだと考えている。その点を踏まえると、「新築」という表現が適切ではないかと思うが、よろしいか。

委員：異議なし

委員C：「既存施設を活用できる点でも有効である」という表現については、少し引っかかるところがある。今回の内容には新築に当たる部分も含まれているため、現状の表現では実態が十分に伝わらないのではないかと思う。

そのため、新築となる部分があることも踏まえ、誤解が生じないように、文章を多少修正した方がよいのではないかと考える。

事務局：この「既存施設の有効活用」という表現については、体育館などの施設を既存施設として有効活用できるという意図で記載している。

一方で、さらに整備が必要な部分や、耐久性、築年数、安全面などを踏まえ、新しく整備する必要があるものについては新築を行うことになる。そのことが分かるような文章を一部加えることで、市民の皆様にもより正確に伝わるのではないかと考える。

既存施設を活用する部分と、新築によって整備する部分の両方があることを分かりやすく示す表現について、検討していきたいと考える。

また、基準を満たしており、改修によって活用可能な施設についても対象になると考えている。

一方で、校舎については、「既存の校地を活用し、校舎を新築・改修して再編する」といった記述もあるため、新築や改修の考え方については、すでに一定程度示されているものと考えている。

そのため、ここでいう「既存施設の有効活用」とは、主として屋内運動場や基準を満たしている施設を活用するという趣旨でご理解いただきたいと考えているが、その点を文章だけで十分に伝えるのは難しい部分もあるかもしれない。

また、別の箇所にも既存施設の有効活用や改築に関する記述があることから、そうした意味合いも含めて全体のバランスを考えると、現在の表現でも一定の整理はできているのではないかと考えている。

委員長：おそらく、市民の皆さんに対して「新しくなる」ということが分かるような説明の一文があれば、より伝わりやすいのではないかと思います。

先ほど修正いただいた「新築」という表現についても、この文章の中ではその言葉だけが出てくる形になっている。そのため、「新しく整備する」といった趣旨が分かる一文をどこかに加えることで、より理解しやすくなるのではないかと思います。

既存施設を活用する部分と新築する部分の関係性が市民の皆さんに伝わるよう、「新しくする」ということが分かる表現を加えていただくとよいのではないかと考える。

委員長：表現については、検討するというごことでご理解いただきたい。

委員：異議なし

委員B：今の小学校5年生か4年生くらいの児童が、部活動に参加する最後の学年になるのではなかったかと思う。

令和13年度頃になると、現在の小学校2年生くらいの子どもたちが対象になると思うが、その時点で部活動が存在している可能性はあるのだろうか。

もし部活動が行われていないのであれば、この計画の中にあえて「部活動」という文言を入れなくてもよいのではないかと思います。そこについて確認したい。

事務局：部活動につきましては、令和12年の夏までに地域展開を完了する予定としているため、実際に学校再編が行

われる時点では、学校に部活動はないという形になると考えている。

そのため、「部活動」という表現を削除することも一つの方法だと考える。

なお、この部分については、これまで委員の皆様からいただいたご意見をそのまま反映した記述としているため、「部活動」という文言を削除するのであれば、そのように修正することも可能である。

また、「部活動」という表現ではなく、「文化・スポーツ活動」などの表現に改めることもできると考えている。その点も含めて、どのような表現が適切か、改めてご協議いただければと思う。

委員長：ただ今の意見について、「部活動」ではなく「文化・スポーツ活動」という表現に修正することもできるとの説明があった。

ただし、この部分については、現時点で使用されている文言をもとに、グループワークで出された意見を反映した内容であると考ええる。

そのため、現時点の表現を生かす考え方もあれば、今後の地域展開を見据えて「文化・スポーツ活動」などの表現に修正する考え方もあると考える。そのあたりも踏まえ、より適切な表現について検討を求める。

委員E：部活動がなくなるということについては十分理解している。ただ、この資料の他の箇所にも「部活動」という文言が出てきているため、この部分だけを修正するのであれば、他の箇所についても表現を統一して見直していく必要があるのではないかと思う。

そのため、ここだけを変更するのではなく、答申全体の中で用語の整合性を図りながら検討した方がよいのではないかと考える。

委員長：答申全体の表現の見直しも含めて、また現時点において市民の皆様の説明に分かりやすい表現となっているかという点も踏まえ、ご検討いただければと思う。

先ほどのご意見としては、「部活動」という文言については、そのまま残してもよいのではないかという趣旨であったと思う。

本答申は、現時点で皆様からいただいているご意見や、現在の制度に基づく考え方を反映して取りまとめるものであると考えている。

そのため、将来的に部活動がなくなる見込みがあることは承知しているが、ここで記載している内容は、現時点で実施されている取組や、それを踏まえたご意見を反映したものである。

そうした観点からすると、「部活動」という表現を用いることも一定妥当ではないかと考えるが、表現の整理については答申全体との整合性も含めて検討していただければと思う。

委員B：保護者の方々がこの答申を見ることを考えると、特に現在、部活動に関わっている年代の保護者の方々は関心が高いと思う。

一方で、部活動の地域展開について十分な説明の機会がないまま「部活動」という文言が残っていると、「今後も部活動が続くのだろうか」と受け止める方もおられるのではないかなと思う。

そのため、現時点での取組を反映した表現であることは理解しているが、市民や保護者の方々に誤解なく伝わるような表現についても考えておく必要があるのではないかなと思う。

保護者の方々がこの答申を見たときに、「部活動」という言葉があることで、「新しい学校になっても部活動があるのだな」と受け取られる場合もあるのではないかなと思う。

一方で、「文化・スポーツ活動」という表現になると、具体的にどのような活動を指しているのか分かりにくく、「そういったものがあるのだろうか」と感じる方もいるかもしれない。

現在の中学生や小学校高学年の児童であれば、「部活動があるからそのことだな」と理解できると思う。しかし、この計画の対象となるのは今の小学校2、3年生以下の子どもたちであり、その頃には部活動はなくなっている。

そう考えると、「部活動」という表現が残っていることに少し違和感がある。どのような表現が将来の実態を踏まえて分かりやすいのか、検討した方がよいのではないかなと思う。

委員長：今のご意見は、将来的に学校再編が実施される時点を想定すると、部活動は地域展開されており学校には存在していないため、「部活動」という文言は実態に合わなくなるのではないかと、そのため表現を修正すべきではないかというご意見であったと理解している。

委員B：その点は本当にこの答申のメリットとして記載する内容かどうかだと思う。再編後の学校を想定したときには、学校の部活動はなくなっているはずである。

そうした中で、再編によるメリットとして「部活動」を挙げるのは少し違和感がある。実際には部活動が存在しないにもかかわらず、メリットとして記載されていると、市民や保護者の方に誤解を与える可能性もあるのではないかとと思う。

そのため、将来の姿に即した内容とするのであれば、「部活動」という文言については見直した方がよいのではないかと考える。

委員長：時間軸との関係もあると思う。この答申は、生徒数の減少を見据えながら、現段階においてどのような学校づくりを進めていくかという観点で議論してきたものである。

そのため、現時点では部活動は存在しており、また、「部活動」と言い切るだけでなく、それに類する活動も含めた形で議論がなされてきた部分もあると思う。現在、クラブチーム等で活動している子どもたちのことも含めてのご意見であったのではないかと推察している。

そのような考え方も踏まえながら、表現についてご検討いただければと思うが、いかがだろうか。

他の委員の皆様も、ご意見があればお願いしたい。

委員F：現在、様々な場面で言われているのは、「部活動がなくなる」というよりも、中学校の教員が担っている部活動が地域へ移行していくということではないかと思う。

社会的には、部活動そのものがなくなるのではなく、学校単位の活動から地域展開へ移行していくものとして認識されているのではないかと。

そのように捉えるのであれば、この表現はそのままでもよいのではないかとと思う。グループ討議の中でも、「これ

から部活動はどうなるのだろうか」といった話題が出ていたと思う。

そうしたことを踏まえると、この文言を削除するのではなく、「部活動」あるいは「部活動等」といった表現を用いることで、その趣旨がより伝わりやすくなるのではないかと考える。

委員長：ここの説明文では、「学校規模を確保することで、学級編成や学校行事、部活動を通して」といった表現になっているため、学校の中で行われる部活動を想起するという受け止め方もできなくはないと思う。

一方で、先ほど委員からご指摘があったように、部活動の地域移行が進んだ場合であっても、活動そのものは地域において継続されることになるため、「部活動」という捉え方が全く成り立たなくなるわけではないとも考えられる。

そのため、この表現については、学校部活動として受け取ることもできれば、地域移行後の活動を含めて受け取ることもできるのではないかとと思う。

そうした点も踏まえながら、どのような表現がより適切か、ご検討いただければと思う。

学校における部活動は地域移行が進むことになるが、「部活動」という名称そのものが残る可能性があるのかどうか、その点について事務局から説明をお願いしたい。

事務局：学校に部活動という名称自体は残らない。部活動は地域へ移行し、その後はクラブチームなど、それぞれの地域団体において、社会体育や社会教育活動の一環として子どもたちが活動していく流れになる。

そのため、そうした点を踏まえると、先ほど提案させていただいたように、「文化・スポーツ活動」という表現に置き換えることも一つの考え方ではないかと思う。

「文化・スポーツ活動」と表現すれば、現在学校で行われている部活動を含むことができるし、将来的に地域展開が進んだ後も、子どもたちが地域で文化活動やスポーツ活動を継続していくという意味合いも含めることができると考える。

委員長：この文言についてですが、なかなか結論を出しにくい部分もあり、さまざまなご意見をいただいたところです。しかしながら、答申として一定の方向性をまとめていく必要もある。

皆様のご議論を踏まえ、委員長として申し上げますと、まず、グループワークの中で出されたご意見を可能な限り答申に反映したいという思いがある。

また、時間軸の観点から考えると、将来的には部活動の地域移行が進むこととなりますが、現時点における活動の実態を踏まえると、「部活動」という表現が最も分かりやすく、議論の内容を適切に表しているのではないかと考える。

そのため、本答申においては「部活動」という文言を使用する形で進めさせていただければと思う。

委員長：Ⅳ 西予市立中学校の再編に向けた具体的な方策
5 中学校を再編するにあたっての配慮事項 （１）学校運営と教育の質について、意見を求める。

委員 A：2 点ある。まず 1 点目だが、「地域学校協働活動推進員等を配置し、学校と地域、企業や関係機関等をつなぐ体制を整備することが必要である」と記載されている箇所についてである。

この記述については、再編後の 2 校それぞれにおいて、地域学校協働活動推進員が少なくとも 1 名以上配置されるという認識でよいのだろうか。確認したい。

事務局：地域学校協働活動推進員の配置については、現時点で再編後の各校に 1 名以上配置されると確約できるものではない。

例えば、各校に 1 名ずつ配置してほしいというご要望があるのであれば、その旨を答申の中で明確に示していただくことは意義があると考ええる。

一方で、実際の配置については予算面なども関係してくるため、この場で配置を確約することは難しい。

ただし、地域と学校をつなぐ体制の充実という観点から、地域学校協働活動推進員の配置を求めることについては必要なことではないかと考えている。したがって、答申として要望を盛り込んでいただくことは可能であると思う。

委員 A：再編の目的の一つとして、多様な価値観に触れながら切磋琢磨し、成長していくことが挙げられていたと思う。しかし、その前提として、まず自分がどのような地域で育ち、自分がどのような人間であるかというアイデンティティを育むことも大切であり、その土台があつてこそ他者と関わる力が身に付くのではないかと考えている。

そうした観点から見ると、前回のグループ討議でも出ていたが、地域との連携・協働に関する記述や、地域学校協働活動推進員を活用した連携体制の充実に関する記述は非常に重要であると感じている。

この記述を読んだとき、「必要である」と明記されていることから、再編後はそれぞれの学校に地域学校協働活動推進員を配置していただけるのかなと受け止めていた。

一方で、前回配付された資料では、地域学校協働活動推進員はすべての小・中学校に配置されているわけではないという説明があつたと記憶している。

しかし、再編が進む過程においては、地域との連携や調整がこれまで以上に重要になると思うし、併せて教職員の負担軽減という観点からも、この制度は非常に重要な位置付けになるのではないかと考えている。

そのため、個人的には、再編後の 2 校体制を進めていくのであれば、地域学校協働活動推進員についてもできる限り配置を進めていただけるとありがたいと思っている。

事務局：検討委員会の皆様がそのような共通認識をお持ちであるならば、文言の修正も一つの方法ではないかと考える。

具体的には、「地域学校協働活動推進員等を配置し」という記述の「活動推進員等を」の後に、「各校に」という文言を加えることで、検討委員会としては、再編後の各校に少なくとも 1 名は配置してほしいという要望をより明確に示すことができるのではないかと思います。

そのような表現にすることで、地域と学校をつなぐ体制づくりの重要性や、各校への配置を望む意向が答申の中でも分かりやすく伝わるのではないかと考えるが、皆様いかがか。

委員長：それでは、「地域学校協働活動推進員等を配置し」という記述については、「各校に」という文言を加えるこ

とで、地域連携・協働を推進し、学校と地域をつなぐ教育環境の充実を図るという意図をより明確に示すこととしたいと思う。

この修正により、検討委員会として、各校への配置が望ましいという考え方を答申の中で示すことになるが、そのような趣旨でご理解いただけるか。

委員：異議なし

委員A：宇和中学校の校舎を活用して再編する場合についてであるが、グループワークでは交通渋滞の問題が大きな課題として挙がっていたと認識している。

その点に関して、渋滞の解消や交通対策に向けた取組について、答申のどこに記載されているのか確認したいと思い資料を見ていたのだが、見つけることができなかった。

渋滞対策に関する記述があれば教えていただきたい。あるいは、どこかに盛り込まれているのであれば、その箇所について説明をお願いしたい。

事務局：渋滞対策に関する記述については、4ページをご覧いただきたい。

ハード面に関する項目の中で、「送迎による渋滞が懸念されるため、公共交通の活用も含めた交通動線の整備を図る必要がある」といった内容を記載している。

この部分において、再編後に想定される送迎車両の増加による渋滞への対応や、公共交通の活用も含めた交通環境の整備について表現している。したがって、渋滞対策については、この箇所で整理しているとご理解いただければと思う。

委員長：Ⅳ 西予市立中学校の再編に向けた具体的な方策
5 中学校を再編するにあたっての配慮事項 （2）生徒の心のつながりについて、意見を求める。

委員B：交流機会の充実に関する記述の中で、「宿泊研修や学校行事、スポーツ大会、修学旅行等を合同で実施することを通して」という表現があるが、この「修学旅行を合同で実施する」という部分について少し気になっている。

例えば、再編対象となる学校同士で、合同で修学旅行を実施するというイメージなのだろうか。

宿泊研修については、グループワークなどを通じて交流を深めることができるため、合同開催の意義は理解できる。しかし、修学旅行については、各学校の特色やこれまでの取組もあることから、それぞれの学校で実施した方がよいのではないかと感じている。

そのため、「宿泊研修」や「学校行事」の合同実施は理解できるものの、「修学旅行」まで合同で実施することについては少し難しいのではないかと考える。この点について、どのように考えればよいのか説明を求める。

委員F：例えば、宇和中学校へ進学する学校の児童が、すべて小学校の段階で合同の修学旅行に参加するということは、現実的には難しいと考えている。

一方で、現在においても、小規模校同士が合同で修学旅行を実施している事例は数多くある。

ここで記載している趣旨は、「全ての学校が必ず一緒に修学旅行へ行く」ということではなく、可能な範囲で学校間の交流機会を増やしていくということであると考えている。

学校同士の協議や調整によって合同で実施できる活動があれば、その機会を積極的に活用することで、中学校進学前から顔見知りの関係をつくることができる。「あのとき一緒だった」という経験は、中学校進学後の人間関係づくりにもつながると考えている。

そのため、スポーツ大会や学校行事、修学旅行といった例を具体的に挙げているが、全てを合同で実施することを求めているわけではない。

現在の教育活動の中で無理なく実施できる範囲で交流機会を増やし、再編後の円滑な人間関係づくりにつなげていくという考え方で記載しているものであると考える。

委員長：ここに記載されている文言については、必ずしも全てを実施しなければならないという趣旨ではなく、このような活動が可能ではないか、また、そのような取組を行うことで子どもたちにとってより良い教育環境につながるのではないかという観点から出されたご意見をまとめたものと理解している。

したがって、宿泊研修や学校行事、スポーツ大会、修学旅行等についても、必ず合同で実施することを求めるのではなく、学校の実情に応じて実施可能なものから取り組んでいくことを想定した記述であると考えている。

子どもたちの交流機会を増やし、再編後の円滑な学校生活につなげていくという趣旨で示されたご意見であると受け止めている。

事務局：この内容は、グループ1から出されたご意見を反映したものである。

趣旨としては、学校統合前の段階から、宿泊研修などを通じて児童生徒同士が交流できればよいのではないかと、いったご意見であった。

一方で、先ほどご意見があったように、各学校にはそれぞれの教育課程や学校運営上の事情もあると考えている。

そのため、ここで記載している内容は、必ず実施するという趣旨ではなく、あくまでも可能な範囲で、こうした交流の機会を設けることが望ましいという考え方によるものである。

特定の学校を対象としているわけではなく、実施可能な学校間において取り組むことができればよいのではないかと、この意図で記載しているので、そのようにご理解いただければと思う。

委員長：Ⅳ 西予市立中学校の再編に向けた具体的な方策
5 中学校を再編するにあたっての配慮事項 (3) 地域連携・部活動地域展開・閉校施設の活用について、意見を求める。

委員：意見なし

委員長：西予市中学校再編検討委員会審議状況 西予市中学校再編検討委員会 委員名簿について 意見を求める。

事務局：先ほど部活動についての話が出ていたので、この点について学校教育課から少し説明させていただく。

部活動の地域展開については、現在、地域展開推進協議会等において協議を重ねており、昨年度にはロードマップを作成している。

その計画では、令和 12 年度末までに地域展開を完了し、学校における部活動は実施しない形へ移行する予定としている。もちろん、今後もさまざまな課題があるため、その計画に沿って一つ一つ課題を解決しながら進めていかなければならないと考えている。

ただし、部活動がなくなるということではなく、これまで学校で行っていた活動を地域へ移行し、学校と地域が連携しながら活動を継続していくという考え方である。

したがって、現在は中学校の部活動として行われている活動も、今後は地域クラブなどの形で、地域の中で子どもたちが継続して活動できるよう進めていくことになる。

地域クラブで実施される活動を「部活動」と呼ぶのかどうかという点については、整理が難しい部分もある。ただ、子どもたちの視点で考えると、現在中学校で行っている部活動の活動内容を、今後は地域において継続していくというイメージで捉えていただければと思う。

したがって、学校で行う部活動という形はなくなるが、活動そのものがなくなるわけではない。地域クラブなどを受け皿として、子どもたちが引き続きスポーツや文化活動に取り組めるよう進めていくことになる。

これから私たちも、部活動の地域展開について様々な場面で説明していかなければならないと考えている。

その際には、部活動そのものがなくなるわけではないということを、より分かりやすくお伝えしていきたい。

現在、子どもたちが部活動として取り組んでいるスポーツ活動や文化活動については、将来にわたって継続して活動できるよう、地域が主体となって支えていくことになる。

つまり、活動そのものがなくなるのではなく、その活動の場や運営主体が学校から地域へ移行するということである。

これが部活動の地域展開の基本的な考え方であり、子どもたちがこれまで取り組んできたスポーツや文化活動を将来にわたって継続できるよう、地域全体で支えていく仕組みであるということを、今後も分かりやすく説明していきたいと考えている

委員長：補足説明として、部活動の地域展開についてご説明いただいた。

部活動については、学校から地域へ活動の場が移行していく一方で、子どもたちのスポーツ活動や文化活動そのものは継続されていくという考え方について、理解を深めることができたと思う。

それでは、ここまでの内容も含めまして、答申全体を通して何かご意見、ご質問等はないか。

事務局：宇和中学校の校地を活用し、校舎を新築・改修して再編するという箇所についてであるが、一番最後の「三校を現在の宇和中学校の～」という記述についても、先ほどご議論いただいた内容と関連する部分がある。

先ほど画面でお示しした赤字部分については、同様の趣旨となるため、こちらの記述についても表現を変更してはどうかと考えている。

以上、事務局からの意見として提案させていただく。

委員長：皆さんいかがか。

委員：異議なし

委員G：学校名や校歌、制服、学校文化等については、「丁寧に検討していく」と記載されており、今後さらに議論を重ねながら検討されていくものと受け止めている。

この件については、保護者の方と話をする機会があった。その方は会議録などもよく確認されており、新しい学校をつくるという考え方について、「これまでとは異なる学校が一緒になるのだから、新しい学校として考えるべきだ」という意見に共感されていた。

また、将来的に一つの学校になることを見据えるのであれば、校歌や制服などについても、西予市として統一したものを検討してはどうかという意見もあった。

確かに、まず2校体制となり、その後さらに1校へ再編されることになれば、その都度新たな校歌や制服等を整備することとなり、二度、三度と変更が生じる可能性がある。

そのため、将来を見据えて統一したものを検討するという考え方も一つの方法ではないかと思う。私自身もその意見には一理あると感じた。

もちろん、今後丁寧に議論を進めていくことになると思うが、一つの考え方として意見を述べさせていただく。

委員長：貴重なご意見をいただき、感謝する。

本日、事務局から提示された答申案については、多くのご指摘やご提案をいただき、建設的な議論を重ねることができた。その結果、答申案としてより充実した内容に整理することができたのではないかと考えている。

そのため、次回改めて検討委員会を開催し、全体で再確認を行う必要はないのではないかと考えている。

本日いただいたご指摘に基づく文言の修正や最終確認については、委員長及び副委員長にご一任いただき、答申書を確定させたいと考えている。

その上で、先ほど事務局から説明があったとおり、8月18日に教育長へ答申を行いたいと考えているが、このような進め方でよいのか。

委員：異議なし

委員長：皆様にお認めいただいたということで、本日ご指摘いただいた修正箇所の確認については、委員長及び副委員長にご一任いただき、責任を持って最終確認を行った上で、答申をさせていただきたいと考えている。

については、資料12ページの「検討委員会審議状況」について、第9回検討委員会が最終の審議となることから、「第9回検討委員会の答申について」に変更をお願いしたい。また、「第10回検討委員会について」の記載は削除をお願いしたい。

それでは、委員の皆様におかれては、これまで答申書の作成及び内容の確認にご協力いただき、誠にありがとうございました。皆様からいただいた貴重なご意見を反映しながら、答申書を取りまとめることができたことに感謝申し上げます。

（３）その他

委員長：その他についての説明を事務局に求める。

事務局：次回検討委員会については、開催しない旨、説明する。

	委員長：先ほどお伝えし忘れたが、修正した答申書につきましては、委員の皆様へ送付させていただく。 その他意見を求める。 (発言者なし) 4 その他 事務局よりお礼 5 閉 会 副委員長：閉会の挨拶 ～20:32
備 考	